



道連役員による台風被害現地調査（鶴居村下久著呂地区佐藤農場の損壊牛舎）

CONTENTS

- JAグループ道連役員 台風被害報告・現地調査 ——— 1
- 第107回 釧路種馬共進会 ——— 2
- 白糠・農村サマーフェスティバル
JAくしろ丹頂音別年金友の会総会・親睦旅行 ——— 3
- 第14回「祭りinほろろ」/ 釧路管内JA女性部員交流会
釧路管内JA野球大会 ——— 4
- JAグループ 連合会・中央会の活動内容紹介 ——— 5
- 普及センターだより ——— 6
- 第28回 JA北海道大会「パネリストからの提言」最終回 — 7
- 理事会報告 / 生乳生産実績
本所駐車場スペースのご案内 / 退職者 ——— 8
- JA共済から大切なお知らせ ——— 9



管内JA野球大会 7年ぶり優勝!!

JAグループ道連役員来所

～台風7号被害の現地調査～



ホクレン 瀧澤義一副会長(左) JA厚生連・共済連 小野寺仁会長(右) 来所

八月二十六日、本所でJAグループ道連の役員を代表し、JA厚生連・共済連 小野寺仁会長、ホクレン 瀧澤義一副会長以下七名が来所し、台風7号による被害状況の報告及び現地調査が実施されました。

小野寺会長は、「台風7号による被害は極めて大きく、私ども連合会も三班に分かれ、被害調査を実施しております。今回被害にあわれました農家の皆様方には心からお見舞いを申し上げます。農家の皆様方に対し、心のケアも含めて対応して頂いていることに感謝を申し上げます。今後は、連合会として中央へ強く支援要請し、被害対応を進めて参りたい。」と挨拶されました。

武藤組合長からは、「台風7号は、過去に例のない甚大なる被害となり、長期停電による廃棄乳、施設の損壊、乳牛の健康等多くの問題が発生しております。今後はリスク管理も含めて対応策を検討して参りたい。今回の被害対応は、単協や個々の組合員の力では乗り切れない異常事態のため、今後の対応をよろしくお願い致します。」と要請

しました。

坂本営農部長

より、停電による生乳廃棄の状況、施設の被害状況ならびに乳牛や生乳生産への影響、デント

コーンの倒伏、草地・畑地の冠水などについて説明されました。

また同部長からは、停電が長期化しないように、道連から北電に

対し強く要請してほしい意向を伝えました。

その後、被害農場の現地に入り、乳牛・施設・

圃場等の現状を確認しました。

確認しました。

台風7号による生乳被害状況 (8月24日現在)

生乳廃棄被害	廃棄戸数	廃棄乳量 (推定乳量)
4地区計	41戸	67,813.6kg
停電による未搾乳被害 (損失乳量)	未搾乳被害戸数	未搾乳量 (推定乳量)
4地区計	39戸	42,611.3kg
廃棄及び未搾乳による被害合計	合計戸数 (重複除く)	合計被害量 (推定乳量)
4地区合計	57戸	110,424.9kg

台風7号による施設被害状況 (8月24日現在)

	罹災農場数	罹災施設数
4地区合計	100農場・2組合	160施設

※その他デントコーン農地についても被害状況の報告がありました。



幌呂地区の損壊牛舎

第107回 釧路種馬共進会

管内から出品馬が集まり資質を競う



審査員：山下 大輔 氏



「琴 舞 姫」松井 紀行 氏（幌呂）



「皇 極」小野田 喜一 氏（音別）



「栄 光 姫」山田 恵理実 さん（白糠）



「春 風」佐藤 浩一 氏（音別）



七月二十六日、釧路市大楽毛・釧路農協連共進会場で、第107回釧路種馬共進会が開催されました。

管内四JA（標茶、阿寒、摩周湖、丹頂）から、計二十六頭の出品馬が集まり資質を競いました。

審査員は山下大輔氏（公益社団法人 日本馬事協会業務部参事）が務め、第1部1才雄

馬から第7部ポニー2才以上雌馬までの各部を審査しました。

当JAからは計四頭が出品され、審査の結果、最高位賞にJA阿寒・山崎征英さんの出品馬「優姫」（5部・3才以上雌子付き・日本純系種）が選出されました。

主な成績及び出品者は表のとおりです。

入 賞 馬 一 覧				
部	順位	名 号	品 種	出 品 者 (地区)
2部	1等	琴 舞 姫	日 本 純 系	松 井 紀 行 (幌呂)
4部	2等	栄 光 姫	半 血 (純)	山 田 恵理実 (白糠)
5部	3等	皇 極	日 本 純 系	小野田 喜 一 (音別)
	3等	春 風	ブルトン	佐 藤 浩 一 (音別)

白糠・農村サマーフェスティバル 開催

～ソフトボール大会などで親睦を深めました～



白熱したソフトボール大会

POPメイ
ンでバンド名
の由来は実在
するバンド・
ペニシリンと
牛の抗生剤名
をもじる。に
よる生演奏で
会場は大いに
盛り上がり楽
しいひと時を
過ごしました。

八月七日、白糠町和天別・旧河原小中学校で、JA青年部音白支部及び4日クラブ主催の農村サマーフェスティバルが開催されました。

昼の部は、ソフトボール大会が行なわれ、熱戦が繰り広げられました。夜の部は懇親会が行なわれ、焼肉を囲んで情報交換を図り懇親を深めました。

余興は、早食い早飲み競争、花火大会の他、青年部メンバーのバンド「アンピシリン」(J



早食い早飲み競争で一喜一憂

JAくしろ丹頂音別年金友の会 総会・親睦旅行

～思い出に残る楽しいひと時を過ごしました～



七月二十六日から三日間、JAくしろ丹頂音別年金友の会は、川湯で第二十八回通常総会並びに親睦旅行を実施しました。

会員三十二名が出席し、川湯温泉で通常総会が行なわれ、議案は全件承認されました。

総会終了後は、カラオケ大会などで親睦を図り楽しいひとときを過ごしました。

二日目は、網走市のよこやま果樹園でさくらんぼ狩りを行なった他、網走監獄博物館などを見学し、思い出に残る親睦旅行となりました。

第14回「祭りinほろろ」開催

～天気祭りも兼ね 今後の好天を願う～



J A職員もカラオケで熱唱！

会場では女性部による手作りの惣菜なども販売され、カラオケ大会などで大変盛り上がりました。

八月三日、幌呂農村環境改善センターで、第14回「祭りinほろろ」が開催されました。祭りinほろろ実行委員会（幌呂の農業者で構成、実行委員長 藤澤常行氏）主催で会場には、組合員の皆様などで大いに賑わいました。

藤澤実行委員長から「祭りinほろろが多くの皆様方の出席により盛会裏に開催されることを大変喜ばしく思っております。今後、好天が続くことを願い今日は天気まつりも兼ねて開催致しますのでお楽しみ下さい。」と挨拶がありました。



女性部の手作り惣菜も好評！

釧路管内JA女性部員交流会 開催

～カローリングで交流を深めました～



カローリングで心地よい汗を流しました

※カローリングとは：氷上で行うカローリングを室内で気軽に楽しめるスポーツ。カラフルなジェットローラーをコート先端にあるポイントゾーンに向け相手チームのプレイヤーと交互に投げ、ぶつけ合いをして得点を競います。

八月二日、標茶町農業者トレーニングセンターで、釧路管内JA女性部員交流会が開催されました。

管内JAから部員・子供・事務局・関係者合わせて三十八名、うち当JA女性部から六名が参加し、カローリングで交流を深めました。

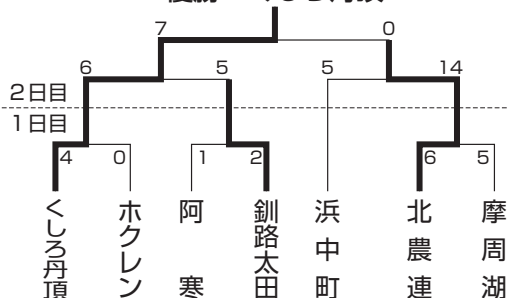
単組混合・四名一組の各チームに分かれた部員達は、ジェットローラを相手チームと交互に投げ合い、得点を競いながら心地よい汗を流しました。終了後は、昼食を取りながら意見交換を行ない、親睦を深めました。



交流会で親睦を深める

大会結果

優勝：くしろ丹頂



八月に江別市で開催された全道大会の結果は、次号で報告致します。

二日目準決勝は釧路太田と対戦し、粘りの野球で6対5で勝利、決勝戦は北農連に7対0で勝利し、見事優勝しました。

七月二十三・二十四日の二日間、標茶町営野球場で、釧路管内JA野球大会が開催されました。

JA野球部は、初日にホクレンと対戦し、4対0で勝利しました。

釧路管内JA野球大会

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動
内容をご紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその
時々のトピックスなど、組合員の皆様に
定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEB
サイトをご覧ください。

JA北海道中央会

JA北海道大会決議事項で
ある「サポーター1550万人



づくり」に向けて、道民の皆さんに食と
農・JAの魅力伝えるスマートフォン
アプリ「JA2MP（ジェイエイジャン
プ）」のダウンロードを開始
しました。

農業イベントや関連施設
のチェックインスポットラ
リー、直売所から発信する
オススメ農畜産物情報など、
皆さん一人一人が北海道の
魅力を再確認していただい
けるよう地域の魅力発信に努
めて参ります。



JA北海道信連

北海道若手女性農業者集団
「Links」のメンバーを講師に、
小学生とその親を対象とした「学ぶ・作
る・食べる 旬食カレッジin札幌 親子料
理教室」を開催しました。

「料理教室」と「食の講演」
を通じて、地域の皆さんに地
元食材のファンになってもら
い、さらにJAバンクの商
品・利便性を紹介しサポータ
ーにつなげることを目的とし
ています。



ホクレン

酪農生産基盤強化対策の一
環として、北海道特有の冬場
の子牛事故率の低減に向けた「冬期子牛
飼養環境向上支援事業」を実施します。

具体的には、出生直後の子牛を暖める
機械装置や分娩監視モニター等の導入助
成を行います。今年の冬、子牛の寒冷ス
トレス対策の強化に向けて本事業をご活
用いただき、将来の経営基盤の基礎とな
る優良後継牛の生産にお役立てください。
日程・事業内容の詳細は、JA担当課へ
問い合わせください。



JA共済連北海道

共済ホールで、「全道LA・スマサポ
大会」を開催し、前年度の普及活動で優
秀な成績を収めたLA62名と、スマサポ
29名を表彰しました。

JA共済では、これからもLA・スマ
サポによる「3Q訪問活動」と「あんし
んチェック」の実践を通
じて、組合員・地域利用
者の信頼と期待に応え、
「安心」と「満足」の提
供に努めて参ります。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の
皆様の生命と健康を守るため、
本会事業の積極的な啓蒙推進を図ること
を目的として、広報誌「すまいる」を発
行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健
康情報を発信しております。
ホームページにバックナンバーを掲載
しております。是非ご一読ください。



乾乳牛の「エサ」について ～現場で気付いたこと～

乾乳牛に与える飼料は搾乳が無いいため粗飼料中心の内容で良いとされてきました。しかし分娩前には胎児の成長や分娩後の泌乳に備えるため、十分な栄養を補給するよう勧められています。



分娩が近づいた乾乳牛

実際の管理では、分娩予定三週間前から分娩に向けて胎児の急成長や代謝機能の変化が起ることから、この時期を境目に前期と後期に分けて管理を行うことが良いとされています。今回は、事例を通して乾乳牛飼料給与のポイントについてお伝えします。

表1 A農場の乾乳牛飼料内容の変化

A農場	泌乳期	乾乳前期	乾乳後期
改善前	搾乳牛用 TMR	乾草＋配合飼料	
改善後		乾草主体で 乾乳牛用TMR を補給	乾乳牛用 TMR主体で 乾草を補給
乾乳前期：分娩50、60日前～分娩2、3週間前まで			
乾乳後期：分娩2、3週間前～分娩まで			

現地事例の紹介（A農場）

この農場は経産牛一五〇頭規模飼養の農場です。経営者は泌乳初期のピーク乳量に満足しておらず、なんとか個体乳量を向上させたいと考えていました。それまでは、乾乳牛に乾草かラップサイレージに配合飼料を一〇二kg給与していましたが、乾乳牛用のTMRを自由採食できるように提案しました。

A農場では、毎日、新鮮な乾乳牛用TMRを給与するようになったことで、分娩前の乳房の張りが強くなり、疾病も減ったそうです。一年以上、この給与を継続したところ経産牛の泌乳初期の平均個体乳量は左図のよう増加しました。

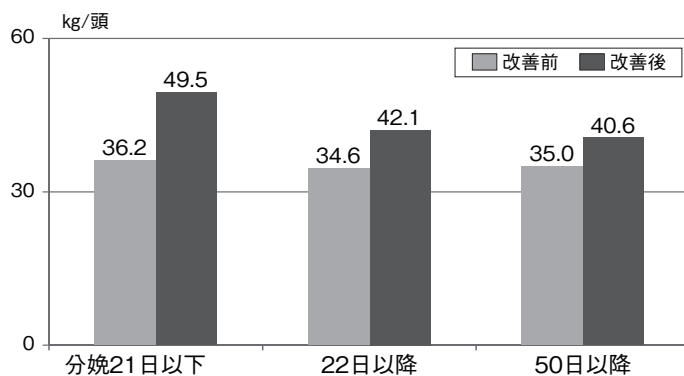


図1 A農場における平均個体乳量の変化

さらに、乾乳後期牛舎に敷料を以前より多く入れたところ、エサを食べた牛達がゆったり横臥するようになりました。

飼料内容の改善と環境改善によって乾物摂取量が向上し、分

乾乳牛の「エサ」における基本原則

乾乳前期	粗飼料主体の飼料給与で、牛の乾物摂取量を満たすよう心掛ける
乾乳後期	分娩後の泌乳生理に対応させるため、栄養給与量を増加させる
牛舎環境	過密にならないよう飼養頭数に注意し、牛が横臥できる環境を整える

娩後の泌乳作用に必要な栄養量が充足されたため、乳量の向上に結び付いたと考えられます。以上、事例から気づいたことをまとめてみました。

「アッ！」と感じた方がいらつしやいましたら、乾乳牛の「エサ」について見直してみてください。

（平成二十八年七月執筆）

第28回JA北海道大会「パネリストからの提言」

第28回JA北海道大会 パネルディスカッション

「550万人と共に創る『力強い農業』と

『豊かな魅力ある農村』の実現に向けた農業の魅力発信

北海道農業協同組合中央会 副会長 内田 和幸氏

JA北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とJAグループに期待すること」をシリーズで紹介します。



うち だ かず ゆき 氏
内 田 和 幸 氏
北海道農業協同組合中央会
副会長

最終回は、JAグループを代表してJA北海道中央会内田副会長からの提言を紹介します。

「力強い農業」、「豊かな魅力ある農村」の実現に向けた組合員の役割

北海道の農業は今まで非常に過酷な条件の中で、先人たちが長年にわたって築いてき

た食料基地としての大きな役割を担っている。自信と誇りを持って、これからの大きな変化の時代に立ち向かっていかないといけない。

農業者一人一人も大きな力ではあったが、そこに協同組合があったからこそ、ここまですべて発展してくることができた。これからもJAの力を大事にしていかなければならない。

こういう時こそ農協に結集して、団結力、組織力を発揮しないと、これからの時代は乗り切っていけない。一人よりも十人、十人よりも百人ということ意識の結集を通じながら難局を乗り切っていかなければならない。

大会決議には、農業所得20%増大、新規就農者の倍増、流通改革、生産コストの削減、など具体的なことがあるが、

いずれも一人ではできない。

北海道農業は、それぞれの地域の中であって、欠かせない産業。地域を味方につける、より農業の理解者を味方につける。北海道の農産物は安心安全、そしておいしいと言われる、さらに地域貢献をしながらJAの、協同の素晴らしさを外に発信していく必要がある。そういった積み重ねが道民550万人の支持につながっていく。そして、理解者につながり、応援団になっていくと思っている。

JA組織は、今まで色々と組合員の所得確保のために改革を行いながら進んできた。しかし、それ以上に時代の流れは速く、その時代にどうやって適応しながら、臨機応変



に柔軟に対応していくか、ということが今後求められる。そのことによってさらに農家組合員の所得、また経営が安定するような近道になればと思っており、あえて言わせて頂いた。

最後に一言

私たちは、道民・国民に安心安全な食料を供給しているという、大きな役割を担っている。

そのことには自信と誇りをもっている。北海道のなかで農業をこれ以上衰退させないようにはしっかりと取り組みをしていかなければならない。もっと外に向かって、農業の良さ、食、そしてまた農業に取り組む姿勢を発信していかなければならない。

そのことが、道民550万人と共に創る力強い北海道農業、豊かで魅力ある農村の実現に必ず結び付く。3年間一緒に頑張りましょう。

理 事 会 報 告

7月定例理事会 平成28年7月29日(金)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 6月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 内部審査の結果について

議案第2号 諸規程等の一部変更について

議案第3号 諸規程の廃止について

※以上全件原案通り承認されました。

その他協議事項

1. 当面の業務日程について
2. 合併10周年記念事業の企画について(骨子案)

付議事項

議案第1号 諸規程の制定について

■平成28年度 生乳生産実績(7月)

	月計乳量(kg)	7月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
釧路丹頂農協	8,849,588.5	102.5	35,195,174.8	103.1
(鶴居地区)	3,021,463.1	101.9	11,933,295.2	101.8
(幌呂地区)	2,358,356.0	105.9	9,325,531.1	105.2
(白糠地区)	1,838,344.2	101.0	7,352,416.5	101.7
(音別地区)	1,631,425.2	100.7	6,583,932.0	104.1
管内計	47,352,765.2	103.5	186,846,626.1	104.3
(前年度管内計)	45,769,374.0		179,216,566.4	

お 知 ら せ

本所・事務所前に身障者専用
駐車場スペースを設けましたの
でお知らせします。

車椅子のマークが
目印です。



大変お世話になりました。

千葉隼人

幌呂支所 家畜改良課家畜改良係 8月5日をもって退職しました。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□ 8月に到来した台風7号の大雨、強風等による被害は、釧路管内でも甚大な被害をもたらし、釧路では観測史上最大となる瞬間風速43mを観測し、農業用施設などの屋根が飛ばされ、倒木等による停電により生乳出荷が出来ないなど不測の事態となりました。これからも台風が頻発する時期となることから自然災害への対策が急務となります。

～JA共済から大切なお知らせ～

自動車共済ご契約者 各位

平成28年10月1日より自動車共済の損害調査体制が変わります。

平素より JA 共済に格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

現在、お客さまにご加入いただいております自動車共済につきまして、車両・対物賠償事故の事故対応、相手方との示談交渉は JA にて行っておりましたが、お客様の利便性を高め、よりご満足いただける損害調査サービスを提供するため、平成 28 年 10 月 1 日より JA 共済連釧路自動車損害調査サービスセンター専任スタッフが事故対応、相手方との示談交渉など事故解決に向け全力で対応し、さらなるお客様の満足度向上に取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

尚、事故等受付窓口はフリーダイヤルか、ご加入先の JA 本・支所で受付いたしますので今後とも、今までと変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

敬具
釧路丹頂農業協同組合

事故解決に向け全力を尽くします

JA共済連北海道 釧路自動車損害調査サービスセンター

釧路市昭和南3丁目16番19号 TEL0154-65-5552:FAX0154-65-5605

祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く月～金曜日の午前9時から午後5時まで



JAの自動車共済 フリーダイヤル安心サービスのご案内

ご契約の自動車が事故や故障に見舞われたときは フリーダイヤル安心サービス (24時間 365日対応)

JA共済事故受付センター		JA共済サポートセンター	
事故等の 場合には	0120-258-931	レッカー移動や 故障時の応急対応が 必要な場合には	0120-063-931
※フリーダイヤルは、携帯電話・PHSからもご利用いただけます。			
電話料金は無料です。 公衆電話につきましては、電話をおかけになる時の10円は必要ですが、かけ終わると戻ります。			

事故発生時の連絡先はフリーダイヤルかご加入のJA店舗までご連絡下さい。

本 所 共 済 課:0154-64-2311	幌呂支所金融共済課:0154-65-2311
白糠支所金融共済課:01547-2-2183	音別支所金融共済課:01547-6-2111

JA店舗での受付は、営業日の午前8時30分から午後5時まで。それ以外はフリーダイヤルをご利用ください。